



ながら SDGs 通信 第 8 回 目標 5. ジェンダー平等を実現しよう



長柄町タウンアドバイザー／千葉大学大学院国際学術研究院 田島翔太

今月は「目標 5.ジェンダー平等を実現しよう」を取り上げます。女性や女の子に対する差別をなくするための目標です。

SDGs は貧困や飢餓などの課題に対して、私たちに大きな変革を求めています。そのためには、女性のエンパワーメント（権限を与えること）が不可欠です。しかし、世界で女性や女の子に対する差別が多く残っています。一例として、世界では一生学校に通うことができない女の子は男の子の約 2 倍いると言われています。143 カ国が憲法において男女平等を保障している一方、52 カ国は男女平等に取り組んでいません（2014 年時点）。日本では、衆議院議員に占める女性の割合は 9.9%で、世界 165 位です。民間企業における女性管理職の割合は 13.3%と、世界的には低い水準です。男女間の給与格差は、男性を 100 とすると女性 74.3 というデータがあります。このように、社会的・文化的な男女の差別がおこなわれている現状のことを、「ジェンダー差別」や「ジェンダー格差」と呼びます。

日本のジェンダー格差の要因の一つに、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）がしづらい環境・慣習があります。ワークライフバランスの改善に向けて、夫の家事・育児時間、男性の育児休業取得率、女性の出産前後の就業継続率などは徐々に増加しています。しかし、個人の努力では限界もあり、国を挙げてジェンダー格差をなくすための抜本的な改革が求められています。

（出典）UN WOMEN「目標 5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」、
内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」